

インターバンクの声（2016 年 7 月 11 日）

週末のニューヨーク市場は、6月の米雇用統計が予想以上に大幅改善、ドル/円は一時101円台までドル買いが進んだ。しかし、米連邦準備理事会 (FRB) が足元で年内の利上げを検討するほどではないとの見方が広がり始めると、一転して元の水準以下まで反落してしまった。17～18万人増と予想された非農業部門就業者数が28万7千人増となれば瞬間的にドル買いの反応もやむを得なかったのだろうが、そもそも相当強い数字が出てドル買いには繋がらないとの見方が多かったのも、失業率の悪化や平均時給の減少がその後の下落幅を広げる格好になった。今後も強い経済指標の発表が続き、8月と9月に発表される雇用統計にも雇用の改善が確認されれば、9月の利上げの可能性がもう一度高まることもあるだろうが、依然として英国の欧州連合 (EU) からの離脱の影響も不透明でもあり、相場にもなかなか方向感が出難いだろう。日銀の追加緩和への期待も一時期に比べれば薄れている気もするが、月末が近づけば改めて追加緩和とその規模を巡る話題が広がることになるだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。